

みんな大好き 百均新聞

倉敷市・船穂中2年

齋藤 優芽

どうやって? 商品が私たちの手に届くまで

みんな大好き
百均新聞
1年A組
齋藤 優芽

お取引先のバイヤーさんに対し、新商品や既製品を提案したり商品開発に関するニーズをとり分けたりする。自分たちで市場調査から企画、サンプル作成まで行なう。大商品を提案することもあれば、お客さんから依頼したいた商品を企画制作することもある。

商品の企画・提案

お協力工場への生産依頼
お客様から発注をいただければ海外(金到中国)にある協力工場へ生産の依頼。英語での電話やメールのやり取りになる。商品のこだわりや大事なおポイントをしっかりと伝え、よいものに仕上げることが重要である。コミュニケーションを日々、重ね、しっかりと信頼関係を築くことが大切である。

納品・出荷

提案から納品までは平均三ヶ月、四ヶ月ほど。全国の店舗で自分たちの商品を企画している。経験や社歴に関係なく、色々な商品にチャレンジすることができる。

①営業組織は
・百円均一の商品を扱う、**百均チーム**
・二百円〜五百円の商品を扱う、**外販チーム**
の二に分かれており、入社後はいずれのチームに配属されます。

100
100
100

100
100

100
500

感想

将来の夢、この世のものがなかなか見つからなかった時、よく買いたいく商品を目に入りました。あんなに便利な物を百均で見つけたらいいな、という疑問が湧いた。実際に調べてみると、百均にはない商品が、実際にあった。新聞に載っていた商品で、100円以下で売られていた。金額で売られていたのは、難しいことではなかった。材料の種、1日に生産できる量が少なくて、1つ1つに職人の工夫がこめられていた。その工夫が、今の百均に反映されている。今、100均にはない商品、100均で売られていた。100均に売られていた商品は、100均に売られていた。100均に売られていた商品は、100均に売られていた。

気になる! 仕事内容

①百均ショップキャンペーンの企画会議

ねえ、昨日のテレビで「雑貨の特集」を見た? 見た! 見た! あの食器とか、めっちゃかわいいわぁー!!

あんな商品を100円で販売できたなら、人気が出さうじゃない?

たしかに〜!! 工場の人と1回相談してみようか!

百均の歴史

商品を買って売って、出さなければいけません。日本国内にお店がござります。1953年(昭和28年)頃からは、流行した。現在、江門に流行した。現在の百均ショップに近い状態を、百均ショップの例として、高島屋が全国に展開した。1971年、高島屋が「百均」を開始した。これが、百均の始まりです。その後、高島屋が「百均」を全国的に展開しました。高島屋が「百均」を全国的に展開したのは、1971年です。高島屋が「百均」を全国的に展開したのは、1971年です。

1922 高島屋十銭十銭十銭ストアに改称

1927 高島屋十銭十銭十銭ストアに改称

1932 高島屋十銭十銭十銭ストアに改称

1937 高島屋十銭十銭十銭ストアに改称

1971 大阪長崎店は、100均に改称。高島屋十銭十銭十銭ストアに改称。高島屋十銭十銭十銭ストアに改称。

(C)山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。